

2014年7月25日

# OB会 だより



定年後の人生・・・

新しい道に挑戦し、輝いている仲間はたくさんいる。  
その一人 吉澤法子さん「コーラス・フラダンス」に挑戦だ。

定年後は合唱をやりたいと思い、現役の時からピアノ教室に通っていた。定年と同時に女声合唱団とフラダンスチームに入団。合唱団は少なくとも年3回は舞台があり、ソプラノ、メソソプラノ、アルトの各パートがそれぞれ音どりをし、曲を作りあげていく。作業は大変だがとても楽しい。2012年の定期演奏会では、加須市に避難されている福島の方々に、黒字分の数万円と自転車・ミシン・タオルなど届けることができた。今は、さいたま芸術劇場での定期演奏会に向け練習中だ。

フラダンスは、「チームの合言葉・気持ちは20歳」を胸に、年2回の舞台のほか、介護・障害施設などを訪問している。80歳を過ぎた2名を先頭に25名の団員は、利用者の方々との交流を重ねながら楽しんでいる。

(吉澤法子さんは埼玉協同病院に検査技師として勤務していました)

## 新入会員紹介

よろしくお祈いします



### ♪♪ 河野 弘子さん ♪♪

35年間、埼玉協同病院で看護師として働いてきました。このたび退職し、「退職者の会」があることを知り、皆さんの仲間に入会させていただくことになりました。

よろしくお祈いします。

退職後は、今までできなかったことをあれやこれやとやりながら、多忙な日々を送っています。

私でも参加できる企画、活動、支援などがあつたら協力したいと思っています。これから「はじめの一步」でがんばりますので、どうぞよろしくお祈いいたします。OB会の方々と会える日を楽しみにしています。



(イラスト・本人)

### ♪♪ 清水 禮二さん ♪♪

大学入学時に埼玉民医連と出会って36年を迎えます。各院所を大過なく巡ることができほつしているところです。思い出はいっぱいです。

一方、町並みが日々変わる浦和美園に本拠地を据え第3の人生を歩み始めました。新しく生まれるこの地域で暮らす人たちとの交わりを大切に進もうと思っています。OB会の皆様宜しくお祈いします。

### ♪♪ 野村 八重子さん ♪♪

3月15日付で退職し、3ヶ月ちょっと過ぎました。はじめの頃は、体をどこへ持っていけばよいのかわからない状態でした。退職する一年前からカーブス（筋トレ）に通っていたので、それを継続しつつ、主人が畑をやっているので手伝っています。草取りは暑い時大変ですが、収穫時はとても楽しいし、喜びでもあります。最近はいろいろ興味も出てきたので、教えてもらいながら楽しんでいます。でも、もう少し働きたい気持ちがあるので、ハローワークにも行っています。

### ♪♪ 武内 優さん ♪♪

「頭はともかく元気な間に辞め、好きなことをしたら」との子どもたちの進言もあり58歳で退職し、同好の士たちとの趣味の映画製作と、秩父路を三度以上も訪れたという民謡・童謡の詩人、野口雨情の足跡を追い回しています。

OB会には退職直後に入りましたが、現役時代と変わらぬ先輩諸氏の活動についていけず、居場所を失い2~3年ほどで退会しました。

今回、昔の仲間から誘われ、後押しされて20年ぶりに再入会します。どうぞよろしくお祈いします。





## 蔵王だより ～春～

浦川 恵子

初めて迎えた蔵王の春、梅に始まり桃、プラム、梨、リンゴと次々に花開く。中でも心ひかれたのが“梨”。

木の周りに廻らせた棚に、人の力で枝がとめられ、房のような形に白い花を咲かせている。農家の人達が丹精込めた梨の木は、本当に美しい。我が家の庭にも、桃と



梨とブルーベリーの小さな苗木を植えた。いつになるか分からない収穫を夢見ている。

私は、ハーブのコンテナ栽培に挑戦中。一番手間のかからない初心者向けのハーブをチョイス、勤勉な蔵王の農家の方たちとは雲泥の差だ。

そんな春もあつという間、我が家の窓という窓から見える景色は、今や新緑一色である。

6月下旬ごろ、家の近くの小川に飛ぶというホタルを楽しみにしている。



## たかが氷、されど氷

石丸 乾二

4月、南極観測用の砕氷船「しらせ」が東京晴海埠頭に帰港した。

「しらせ」には南極に置き去りにできない不要物や研究観測の採取物とともに、この冬に昭和基地の周囲で掘られた氷も研究資料として積み込まれていた。そのおこぼれが、少し我が家にも届いた。冷凍庫に保管して、「オンザロック」で賞味しているが、幹事会の日に持って行こうかと考えている。

南極独特の氷の構造は気泡が気泡として閉じ込められていること。氷が溶ける時その気泡が泡となって氷から浮き出す、ただそれだけが国内で製氷された氷との違いというだけだが・・・ だから「たかが氷、されど氷」と言う訳。

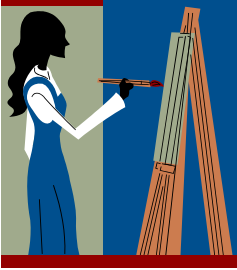


## 私のひとり旅

阿部 テイ

故郷青森にいる母(87歳)は、老健に入所しているので、毎月1回母の元に行く。先月行った時、母の日記をチラッとみたら、私の行く予定の10日くらい前から「あと10日だったら」「9日だったら来る」と、当日まで毎日私の名前を書いて待ちわびている。こんなにも首を長くして待っていると思うと泣ける。青森までの毎月の交通費もバカにならない。これを私のひとり旅だと思い楽しむことにし、新聞と本を持ち、行きの車中はコーヒー、帰りは夕方でもあるのでおいしいものとビールで、旅の気分を味わう。いつも気持ちよく送り出してくれる夫に感謝しながら・・・。





### 98歳の母と親子展 岡部 和子

今年 98 歳になった母は 3 年前に転倒、大腿骨を骨折して現在は車いす生活です。施設の生活でも、何か楽しい計画を立て喜ばせたいと思い親子展を企画しました。

戦中・戦後、四人の子どもを育て苦労してきた母は、70 歳から書道をはじめ 94 歳まで全国書道院展に出品し、数々の賞を受けていました。母の書と私の油絵「パリの風景」7 点と妹の学生時代の油絵展です。多忙な中、皆さんに見ていただき、そして母の書から元気がもらえたとの声、母も会場に二度来ることができました。うれしそうにジッと見ている母の姿が印象的でした。

### 熊谷会館最後の観劇は 松竹大歌舞伎

山本 康男

30 年以上続けている松竹大歌舞伎観劇を今年も行いました。熊谷会館が来年 3 月で閉館になるので、最後の観劇でした。バスで 54 名、他の参加者含め 84 名もの参加者。バスの中では出演者のサイン色紙や歌舞伎グッズの抽選会等で楽しく過ごし、「来年も」との声も。来年はどうなるのかな・・・。



もう一度ひろしまで、平和の誓いを  
民医連退職者の会全国連絡会

第 12 回総会



5 月 20～21 日、広島市で開催された第 12 回全国総会は、22 の都道府県から 81 名の仲間が参加しました。前回総会以降 28 番目の県退職者の会が香川県に誕生し、全国の会員数は 2,887 名（個人会員 20 名含）です。なお、この 2 年間に 78 名の方がお亡くなりになりました。

今総会の特別記念講演は広島開催にピッタリの人、肥田舜太郎先生でした。

「放射能に負けるな！いま語りたい被爆医師 97 歳の人生」と題して、先生は 1 時間 30 分お立ちになったまま、これまで歩いてこられた道のりと民医連退職者の皆さんへの熱い思いを語られました。



聞いている私たちも真剣そのもの、会場は熱い空気に満ち溢れていました。「肥田先生の講演が聴きたい」と、他団体の方もみえていました。

会員が毎年三桁の増加を続けている全国連絡会ですが、「毎年の全国集会は参加が大変」「小さい県は運営や財政が厳しい」などの意見、また、会の趣旨である「ひとりぼっちの会員を作らない」この活動がますます大切になってきているなど、今後の在り方を考える機会になったと思います。

全国連絡会結成から 23 年間、代表幹事として第一線で活躍された増田峰夫さんが退任され、新たに 17 名の役員を選出、埼玉からは引き続き小川祥江が選出されました。来年、被爆 70 年を迎える広島で開催された第 12 回総会は、憲法を守り、平和を守る活動がますます重要であることを確認できた総会だったと思います。

小川 祥江



### 97 歳の肥田先生の講演に 背筋を伸ばしました

西村 米子

広島市で開催された第 12 回総会に参加してきました。

「もう一度ひろしまで、平和の誓いを」このスローガンは、まるで青年ジャンボリーのようななと思いました。約 40 年前に小豆島で開催され、私も参加した、民医連第 2 回ジャンボリーのスローガンは、「語れ、学べ、走れ、若き医療の担い手たち、きみの叫びをオリーブの島で」を思い出させました。

今回の総会では、2 年間の活動の総括と方針を話し合いました。それぞれの県連により、規模も活動スタイルもさまざまですが、「退職者、一人ひとりが主人公、元気で 100 歳、健康づくり、助け合い精神で、人権、平和の楽しい高齢社会づくり」このスローガンのように、全国で、元気いっぱい活動されている退職者のお話はとても暖かなものでした。初めての方ばかりでしたが、同じ民医連で頑張ってきた退職者と思うと、同窓会のようなものでした。

特別記念講演、肥田舜太郎先生のお話は、いつもに増して、はっぱをかけられました。来年は被爆 70 年目、民医連退職者は、元医療従事者として、放射能の事をもっと勉強し、地域で核兵器廃絶、原発ゼロの運動の先頭に立たなければいけない、97 歳の埼玉の肥田先生の講演に参加者は背筋を伸ばしました。

総会を終わり、オプションツアーにも参加しました。尾道と鞆の浦をめぐる瀬戸内の旅でした。天気もよく、瀬戸内海の島々と静かな海は美しく、私の生まれた四国まで見えて、本当に楽しい時間でした。

### ようやく やって来た広島

ノンビリしてはいられない

岡部 和子

全国総会に初めて参加しました。いろいろな機会を逃し、ようやくやって来た広島です。主催者の増田峰夫さんから挨拶として情勢が話されました。特別記念講演



「放射能に負けるな！ いま語りたい被爆医師 97 歳の人生」と題し肥田舜太郎先生からお話がありました。

医師になる道のり、広島での体験を通して「放射能のことをもっと勉強し広げていく仕事がある」と私たちに課題を出されました。お元気で迫力ある話に 97 歳を感じさせないものがあり感動しました。ノンビリしてはられないと思いました。

全国の皆さんの活動からは、たくさんのことを学びました。会の運営では、経済的な悩みを抱えながらも頑張っているなど有意義な総会であり、埼玉の果たす役割も大きいと感じました。

終了後の半日を広島資料館をみて、原爆ドームをスケッチしました。被爆者の方と話をしたり、新潟・中学生の「平和の旅」のイベントにも参加し熱いものを感じました。来てよかったです。



### 所沢で「旦さんを偲ぶ会」

昨年 12 月末に亡くなられた  
高橋旦さんを偲ぶ会が、4 月 20 日  
地元所沢で行われました。

OB会のみなさんはじめ、地域で一緒に活動してこられた仲間の皆さん、そして、旦さんの長男麦さん（北海道で開業医）、長女のなつめさんも参加され、皆さんで旦さんを偲び思い出話に花を咲かせました。 山口 昭子



### ♪♪ お知らせコーナー ♪♪

- \* 学習会 医療生協さいたまの中期計画と今年度方針  
8 月 20 日（月）浦和・機関誌協会会議室
- \* 青春 18 きっぷ・小海線のたび  
9 月 4～5 日（清里高原宿泊）
- \* 第一世代の会員を囲むつどい 権田圭助さん  
西部方面を予定 後日お知らせします
- \* 埼玉高齢者大会  
11 月 17 日（月）川越市民会館





## 第一世代の 会員を 囲むつどい

## 秩父に高橋昭雄先生を訪ねて

仲村 敬子

第一世代との懇談会第2回は、5月10日～11日、秩父に高橋昭雄先生をお訪ねしました。民宿「はまだ」を会場に24名が参加しました。初めに高橋先生から、このような懇談会は世代を引き継いでいくために必要なことであって、企画に感謝していませんと挨拶があり、小野さんが参加者をひとりひとり、名前と働いていた院所、職種など先生に紹介しました。

「忘れえぬ日々 川越中央診療所の頃」というタイトルで話していただきました。



- 川越中央診療所は1950年（昭和25）10月、川越市の中央の、いわゆる「共産党長屋」の一角に小規模の診療所として開設された
- 1951年（昭和26）8月、高橋先生着任
- 1955年（昭和30）9月、秩父中央診療所開設、高橋先生川越より異動、秩父に着任
- 1970年（昭和45）、所長医師の退職により常勤医師不在と

なり、富岡診療所などから支援体制を組んだが、維持できず閉鎖。

この経過にみるように、川越は医師として初めての着任地であり、この地で結婚もされ、先生の人生のうえで大きな意味をもった4年間でした。

お話の中で特に感銘を受けたことがふたつあります。

ひとつは、食料統制法で定めた外食券食堂で食事をするのですが、そこは6時頃には閉店になってしまい、自転車で往診していると締め出されて、一般食堂もパン屋もなく仕方なく水を飲んで寝ることも稀ではなかったという当時の「時代」です。

今では考えられないようなことを経験し、くぐりぬけての今日です。

もう一つは「信念」です。

「医療は基本的な人権の欠かせない一翼であるが、それを保障するヒューマンズムの政治体制を守り抜く行動が不可欠で、ファシズムや軍国主義体制とは、決定的な意欲的な政治の戦いが



必要条件だ」というところです。会議を終えて明け方に自転車で帰りながら、覚悟にも似た緊張感をもったというところに、若き日の民医連医療の姿が感じられます。

今日の発展のなかで「民医連60年のあゆみ」には「開設」「閉鎖」の2行しか載らず、川越中央診療所の20年にわたる活動の記録はありませんが、そこで働いた職員、支援した職員、支えた地域の民主的な組織を忘れてはいけないと思いました。大事な民主診療所をひとつ失った歴史があります。

二日間ともよく晴れて、熊谷駅からSL乗車、今を盛りのミュージックパークのしゃくやくの群落、札所めぐり、法性寺の「花まつり」の見学など（楽しいことも、時間をもてあましたことも、みんな、みんな小野さんのせい・・・）、素晴らしい秩父の旅でした。

### 在籍時代の情景が走馬灯のように

武内 優

配置薬の件で定期的に顔を見せる山本君に「OB会のメンバーが集まり、秩父で高橋先生の講演会があるよ」と誘われ、小川祥江さん、小野敏さんから丁寧な参加案内を頂戴して、参加することを決めました。

20年ぶりに顔を合わせる仲間もすぐ確認できて、講演会に先立ち芝桜など市内観光を楽しみました。

宿舎での講演会の会場は和室で、講師をとり囲みマイクも必要としない家庭的な雰囲気の中、メモをとりながら熱心に耳を傾ける遠来の皆さん方にまじり、私も受講しました。

貴重な高橋先生のお話に聞き入りながら、在籍時代の様々な情景が走馬灯のように目の前に去来しました。最初に勤務した診療所のトイレの板張りの扉に「日和見傍観は組織強化の最大の敵なり」とステッカーが貼られ、利用するたびに気の引き締まる思いに駆られたことなどは一例です。・・・・

交流会のさなか、「急遽帰宅せよ」との連絡があり、残念ながら中途退席。お世話になりました。



羊山・芝桜の丘

### 「川越中央診療所」を後世に残したい

千野 章夫

1951年8月2日、川越中央診療所に着任した高橋昭雄先生、お話の一言一言からその頃の時代背景や先生の決意などが、私の心にしみこんできました。

着任時の困難さは計り知れないものがありました。

それから13年後、私は川越中央診療所に就職した。高橋先生が着任した当時とほぼ変わらない長屋。看板屋、そば屋、共産党事務所、床屋、診療所の5軒長屋、裸電球一つの薄暗い共同トイレだった。

最初に多くの方が口にしたのは、「川越中央診療所の高橋先生がなぜ秩父に行くのか、反対だ。たくさんの患者さんや会員の署名を集めたがダメだった。」目に涙して訴える顔が、高橋先生の講演中も脳裏をかすめ涙がでた。

診療所とつながりの強い生活と健康を守る会の中には、高橋先生が秩父に紅い矢として赴かれたことに賛意を持っていた方も少なくなかった。



そのころ、「必ず民医連として再建できる力をつけよう」と、組織の拡大強化に取り組み、毎年大型バス 3~4 台でヘルスセンターに行くなど交流を深めながら、生協化の取り組みも芽ばえ、土壌づくりの機運が見え出していたが・・・

1970 年 5 月 1 日、川越中央診療所の職員として最後のメーデーに参加、翌日には次の勤務地へとそれぞれ別れた。大井医院に浅野ふみ・新井文子、富岡診療所に千野久子、所沢診療所に田中勝美、現地での再建運動が千野章夫の任務だった。私は、富岡診療所への患者の送迎、伊藤淳先生の往診時の運転、再建をめざしての民主運動や生健会の活動など孤独な戦いが 2 年間続いた。

診療所の再開を願いつつも果たせなかった最後の日、診療所の建物すべてに鍵をかけ、「本日をもって閉鎖します」の張り紙をして診療所を後にした。

翌日は次の職場大井医院の勤務。この経験は私のその後の人生にとって、培ったものは多大なものがある。

埼玉民医連、医療生協さいたまの歴史の中で、「川越中央診療所」を忘れてはならないと、いま書きとめておきたい。また、多くの困難な時期を乗り越えてきた施設の名称やその人々、歴史を、埼玉民医連発展の歴史として後世に残してほしいと強く思う。

#### シリーズ・事業所訪問

#### 浦和民主診療所

訪問者 富田 孝博  
小嶋 美智子

6 月 9 日、浦和民主診療所に清水事務長を訪ね、いろいろお話を聞きました。

「病気になっても、年をとっても、一人になっても、この地域で」この組合員・患者さんの願いを基本に、365 日・24 時間切れ目のない、安心の事業と助け合いネットワークの形成をめざしてきました。みんなが集う健康広場や安心ルーム（約 30 か所）をはじめ、外来・健診・訪問診療、そして「ケアステーション浦診」との連携した訪問系サービスなどが主な活動です。



\* 今年には浦診開設 50 年。

11 月 24 日「記念式典」を埼玉会館小ホールで開催します。

8 月 29 日 プレ企画【浦診の半世紀を振り返る】～過去・現在・そして未来へ～

設立から 2 度の移転を経て、いまに至るまでの歴史をリレートークします。

\* 診療体制は、肥田所長を中心に大学の協力も得て、毎日 3~4 診体制、健診は外来とは別に 3F で、一日 30~40 人の受診者を健診専門医が担当しています。健診後は保健士・栄養士などによる保健指導や健康づくりへとつなげています。

- 「何とか少しでも長く通院したい」という患者さんの願いに応えた個別の患者送迎は、2011年からスタートし利用者は120名、「通院が安心」と喜ばれています。
- \* 浦診は、在宅療養支援診療所として医師・看護師が24時間支える体制をとっています。往診は毎月80～90名の方を週8単位で計画的に訪問、また、「ケアステーション浦診」と密に連携を取りながら、一緒に支えています。看護師は交代でポケットベルを持ち、24時間対応の体制です。（少ない常勤での体制確保はなかなか困難ですが）
  - \* 健診では、さいたま市の特定健診とがん健診をセットで利用し、自らの健康チェック、メンテナンスに活用している方が大勢います。「うらしんだより」6月号によると、昨年、さいたま市がん健診を受けた浦診受診者の中から34名に癌が発見され、なかでも大腸癌が最も多く12名、胃癌8名、全員が早期発見だった事などから、医師会や地域の中でも、浦診の癌発見率は高いと評判です。
  - \* 最後に、経営状況は黒字で順調ですが、最近はこの地域でも専門医のクリニックが増えています。職員は常勤20名、パートを含め60名。この間、新規にCT、内視鏡検査機器や電子カルテ更新等の設備投資をしてきましたが、50年を機に、さらに健康増進、慢性疾患、在宅療養などトータルに支援・サポートする機能と質を高めていきたいと考えています。経済的に困難の患者さんには、無料低額診療の相談等も40件を超えました。「気になる患者さん」の報告が毎日の朝会でもあり、一人一人の患者・組合員さんとしっかり向かい合いながら、地域の「見守り・助け合い・支え合い」の砦として役割をはたしていきたいと話していました。



## ぶらり旅 in 新緑の飯能



伊藤 英子

4月15日、飯能ぶらり旅で天覧山・吾妻峡めぐりに行ってきました。さすがOB会、集合時間には12名全員そろい出発。市内を歩いて山道へ。十六羅漢を見、鎖場も登り1時間ほどで天覧山到着。

195mの山だが視界が開け、飯能市内が一望でき、富士山も白くうっすら。一休みして麓の能仁寺のお庭拝観。

（片目で見ても料金は300円、と変わらない）待望の昼食は大河原の料亭（？）で懐石料理。まあまあおいしかったと思います。昼食後の腹ごなしに吾妻峡を散策。ドレミファ橋を渡って駅に向かい解散。

好天に恵まれ、道端のニリンソウ・

チゴユリに迎えられ、清々しい新緑に染められたブラリでした。







保険でより良い歯科治療を  
市議会で全会一致 採択

朝妻 幸平

私達医療生協新座支部は、「保険でより良い歯科医療の実現を求める意見書の採択を求める陳情書」を6月新座市議会に提出しました。  
その結果、6月5日の本会議で全会一致で採択されました。

陳情書には、「医療保険の自己負担割合が高く、患者・国民にとって医療費が経済的な負担となっています。歯科医療では、長期間にわたり保険給付範囲が拡大されないまま放置されてきました。金属床の義歯やセラミックを用いたメタルボンド・・・なども自費診療で医療が受けにくい状況です」と訴えました。

6月議会の最終日に、陳情採択を踏まえて「国への意見書」も採択される予定です。歯は健康にとってとても大切です。保険で治療できる範囲が広がれば、歯科治療も受けやすくなります。陳情が採択されたのは、埼玉県では新座市が初めてです。他の自治体でも次々続いてほしいです。



「散歩道柄」  
チョウジュソウ  
小田 政満



「私の果樹園」ジュンベリーの花  
栗原 和子



「芝桜の丘から武甲山を望む」 武内 優





浦和・別所沼公園にたたずむ  
 「埼玉県原爆死没者慰霊碑」  
 慰霊式が7月27日10時～11時半  
 開催されます 石丸乾二



「ハルシメジ」 小嶋 美智子



一夜の花  
 「月下美人」

小川 祥江



「オクラの花」

瀬川 則男



「水面に映るすいれんとガン」

あとがき

新入会員4人を迎えての「OB会だより」 うれしいですね。  
 本格的な夏はこれからです。どうぞ健康にご留意ください。次号は10月25日発行の  
 120号。「私の近況」「気軽に一枚」などたくさんの声をお待ちしています。(よ)

埼玉県民医連退職者の会 〒333-1111 川口市木曾呂 1347 老健みぬま内